





多きは半島第一立なり

蔬菜、草花種子、果樹、殖林  
定價表無代進呈寸  
釜線島致院  
三三番 朝鮮興農園

魚士心

快 坂 力 セ リ ン 雨 夜 の 控 江 崎 島 真  
寺 坂 吉 右 衛 門 逆 乗 り 花 井 東 左 門  
マ ス タ ー キ 良 春 日 生 片 岡 右 馬  
原 二 代 監 松 竹 梅 各 篇 鳴 物  
版 権 買 収 中

實記	海外使	口金其	他
實記	海外使	口金其	他

生先  
 書(文章力ナ附)  
 五九 活動寫眞雜誌社

發行

[illegible]

先生が、最も習ひ易く、且  
品變體同連綿體より、習字  
如何なる初習の方にも惡  
辰

繪・挿畫・裝幀畫

和裝四形全一  
量日本紙刷美觀  
本口繪襪彩色招  
繪畫百餘圖

文

價匹拾五錢  
送本料金六錢  
話替

方水の准方、四季百花の挿方、器五  
 平易に記述し、更に斯道の秘なる器五  
 境に及びつゝある人々を不聞此書一露  
 習得せらるべき秘傳の良書也

延期間後は必ず定價に復す

十錢

り頗る苦心慘憺の  
如何なる文字も如  
は勿論構造堅牢に

優美にして一


き得れば携帶用と  
行家外勤家には最  
一度御試用あれ

壹個金八錢  
壹個金五錢

社代理部

田一  
 年梶原外十三箇所より獲金したる五  
 年申十六より集  
 中約五

特價六拾四錢(二割引)期間は六月十五日迄期間後は必ず定價に復す  
新案特許 三六二 九八號  
タイヨ一萬年毛筆 (定價八十錢)



本品は從來有り觸れたるものと異り頗る苦心慘憺の結果實に精巧無比の製作品なれば如何なる文字も如何なる紙質と雖も自由に書き得るは勿論構造堅牢にして永く使用に耐へ穂首は取換自在なれば實用に適し且つ經濟なり尙普通の毛筆より高尙優美にして一度墨汁を入れば端書三百枚迄は書き得れば携帯用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

▲穂先は替穂があります  
▲又携帶に便するためスクリツプもあります  
壹個 金八錢  
壹個 金五錢

發賣元 京城太平通堂丁目 振替東京三〇〇番  
京 城 日 報 社 代 理 部

●主家を購著す 東京市神田一年橋原外十三箇所より集金したる五  
●又携帶に便するためスクリツプもあります  
●主家を購著す 東京市神田一年橋原外十三箇所より集金したる五  
●又携帶に便するためスクリツプもあります  
●主家を購著す 東京市神田一年橋原外十三箇所より集金したる五  
●又携帶に便するためスクリツプもあります  
●主家を購著す 東京市神田一年橋原外十三箇所より集金したる五









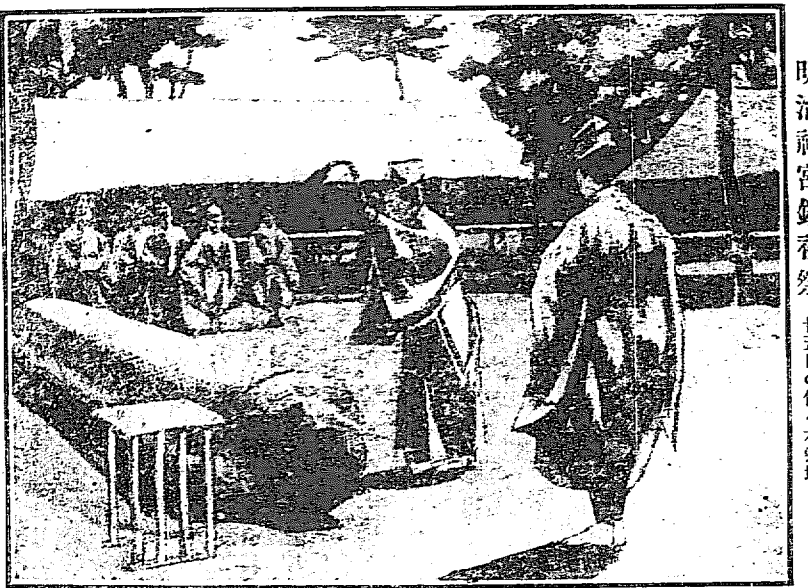






明治神宮新初祭

廿五日の代々木祭場



崇厳なる新の祭

明治神宮新初祭 代々木御苑

東京府代々木御苑に於ける明治神宮新初祭は、神聖なる神域に於ける神事と、人間的な祭典とを兼ねて行はれる。神事は、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。人間的な祭典は、神楽の舞の後に、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。神事は、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。人間的な祭典は、神楽の舞の後に、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。

冷たい朝風

明治神宮新初祭 代々木御苑

冷たい朝風が、神域に吹く。神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。人間的な祭典は、神楽の舞の後に、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。神事は、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。人間的な祭典は、神楽の舞の後に、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。

二百餘名に達し

明治神宮新初祭 代々木御苑

二百餘名に達し、神域に吹く。神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。人間的な祭典は、神楽の舞の後に、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。神事は、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。人間的な祭典は、神楽の舞の後に、神主の御祭服に身を飾り、神楽の舞を奉る。

革黨の秘密と女探偵

北軍の爲めに活躍

北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。北軍の爲めに活躍。

拘禁七日

巡防兵邦人を虐待す

巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。巡防兵邦人を虐待す。

俘虜避難

木津川俘虜収容所より出火

木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。木津川俘虜収容所より出火。

お褒美を抱へ

京城幼稚園修了式

京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。京城幼稚園修了式。

雄子三百餘羽

とぞ七頭

とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。

好い心持だ

とぞ七頭

とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。とぞ七頭。

軍艦生活

起床、朝食、訓練

起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。起床、朝食、訓練。

妖術から自殺

妖術から自殺

妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。妖術から自殺。

焚火から出火

二十七日午後

二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。二十七日午後。

掃除が済む

掃除が済む

掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。掃除が済む。

軍艦旗が掲揚

軍艦旗が掲揚

軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。軍艦旗が掲揚。

敬虔忠君の念

敬虔忠君の念

敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。敬虔忠君の念。

枕に就て居る

枕に就て居る

枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。枕に就て居る。

君が代を吹奏し

君が代を吹奏し

君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。君が代を吹奏し。

演藝案内

演藝案内

演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。演藝案内。

成功致富の近道は何か

株の売買に決して危険にあらざる

株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。株の売買に決して危険にあらざる。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。

株の相場を研究

株の相場を研究

株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。株の相場を研究。



北兩軍の競争

地方戦地でも御多  
 戦防部と云ふ條例を急造し  
 地二軍令に其の内容は預る等

これは北京南郊の飛行機  
ある曰く飛艇の防禦は  
大砲で丁つて限る前

大砲で打つに附  
 那には目下其の大砲がないから

一の誓を聞いたら官憲に申出よ  
 境と茶屋登を準備せよ飛艇が来

的であつたが忽ち墜落  
 になつたので最う乗り  
 大砲を排列して轟撃せよ人民は  
 ◇家根の上を半尺厚さ

湖南の方へ回したらと  
り綿で蔽へ而うすれば爆彈が落  
も破烈せぬ、と尾棟を綿で包む

計りの飛行學校優等卒  
て頗る考へた處が面白い南北兩  
戦争は大分大仰に傳へらるゝけ

先生は何と云ふ先づ之れ位の程度だから大抵は漸く一回の飛行に出来やう(北京通信)

短銃強盜現は

（同郡同面上洞農陳弼周（た）の

川端龍子氏（共著）  
「おぼろ」  
クニミヤと字者がその「おぼろ」は格調した  
性質に傾つがはしい臨と文と即興詩とを

たものである。牧むろとこの諸般著色  
毛筆、藍色印線品二十餘枚、数の利い  
（註）（三）「*Shikoku*」とあるが、これは、

かたてゝなれり」ととバツト  
しい目なしかめながら此方  
でなく、今が丁度情な味  
六國が改はされてゐるのが嬉しく此  
に接して衆見の語々は是まで騒ぎに描い

きな足す。——これ此の神秘的木曾といふものを括めて造作なひ偵り知られてゐない木曾路の歴史のま



10

と項はれてゐるのを愉快に思はずには居ない。其の隙の隙の利いたのと共に私は趣味

座右に是非一冊を臨ふる事を勧めたいの  
 因みに朝鮮に遊び奈良をめぐり 木曾路に  
 薩きに龍子氏と共に蒐集一大  
 著者より又比の木曾路を公  
 司小笠原路を別れて越前を去した 國用

は一昨年の夏まで本町に於て  
朝餅の地六色を内  
度東京府下大森新井宿一四五〇番地のス  
倶楽部で樂科點會を催してゐる。 水彩畫

今度の水倉路と目ひ前の大和  
油繪が五匹、十圓の二種、申込みの順に  
配付するさうだ

越後大  
 第百七十二席  
 代官の驚愕  
 剛然るに寛文十一年六月、當仙臺  
 家の騒動に付き、御先代安黨良之助  
 御國家老總代として、江戸表へ  
 出、伊勢、兵部、原田甲斐の大惡人  
 相手取り、公儀へ御馳ひ申し上げ  
 重白の裁判を仰ぎし所、遂に惡人共  
 重事當國に及び、御大老再并駕齊頭  
 御屋敷に於て、當重公御養命これ  
 ため、惡人浪び、忠臣世に出て、仙臺  
 一統安山の安きに至つたのである、  
 又當御節降、奥守綱村公は、水戸黃門  
 光國公の烏帽子に互らせらるに依  
 り、仙臺領の者は士農工商ともに常

**評定**

早川貞水口演

天徳寺入り、若殿様は御里方に御  
し戻し、一瞬は長の暇、かく申す  
公も其一人にて、今日行脚の身の  
斯くを此光園公に御供仕りし  
幸ひに、飽まで此君の御袖に鍵り  
家を再興するは此秋なり」と、思  
出で、最と情なきことに、思はす  
に付け、御家の涙まで最後を考  
官下役それへ罷り出て△「エー御  
役へ申し上げます 剛何事ぢや△  
浦谷様から急回狀に御坐います  
剛ナニ浦谷様より急回狀」と取  
り見ると

常陸南茨城郡水戸の御城主、前中  
納言光園公、北條時義の例に倣ひ  
出狩、陸奥、越後、の三箇國は大  
圍のこと故、政治上遠東なく思召  
され行脚の僧に御供給ひ、忍び忍  
んで御通行の由、百姓共無禮に  
入院隨意（診療夜九時迄）

**泌尿器病専門**

腎臓病 膀胱病 淋病 梅毒 痔瘡 皮膚病

目下二町興永  
院醫部安  
番九一四話電

なき様、乾度申し渡すべきものも、  
但光園公御扮装は、鼠木綿の御  
石物、袴の木の綿代金、白き手  
牌、脚絆、いま一人の出家も、  
是また同じ扮装に是より候由此  
度心得申す可く候  
を見て驚いたのは代官、いま自分

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]



特 別 廉 價  
發 賣 開 始